

8-8

ご主人を探して「お父さーん」と叫び続ける女性

認知症デイにおける困難事例の克服

家族との連携

職員の意識改革

デイサービス はごろもあいきふくし 羽衣地域福祉サービスセンター

ケアワーカー 佐々木 慎

主任相談員 新妻 俊男

東京都立川市羽衣町1-12-18

東京都立川市羽衣町1-12-18

TEL: 042-523-5612

E-mail: hagoromo@fellow-homes.or.jp

FAX: 042-523-5613

URL: http://www.fellow-homes.or.jp

今回の発表の施設
またはサービスの
概要

社会福祉法人恵比寿会が運営しているデイサービス。一般型35名、認知症型10名。リハビリに力を入れています。また、認知症型には完全に独立した十分なスペースがあり、落ち着いた環境で活動しています。

〈取り組んだ課題〉

- K.K.さん、女性、昭和8年生まれ。ADLはほぼ自立だが、重度の認知症状あり、専門外来に通院。
- 他者の前で極度の緊張状態になり、自分やご主人の名前などを大声で連呼する。常にご主人のそばにあり、ご主人を探して行方不明になったこともある。
- 以前にご主人とともに当センター以外のデイを見学したが、K.K.さん本人からは「こんなところには行きたくない」と強い拒否あり。また、そこのデイからも、「徘徊・帰宅願望・大声等あり、他者に与える影響が大きく、受け入れ困難」と言われてしまった。
- このK.K.さんを、当デイサービスでどうやって受け入れていけばよいのか。

〈具体的な取り組み〉

- 18年9月利用開始。ケアマネ・ご主人と相談の上、「週1回・ご主人付添にて2～3時間の利用・送迎もご主人が実施」とする。10月からは週2回に。
- 11月から「ご主人が一時帰宅し、昼食後にセンターにきていただく」という対応を実施。
- 当初は順調だったが、11月中旬より大声でご主人を探すようになった。昼食拒否や、見守り職員に対しての暴言・突き飛ばす等の行動も出現した。
- 19年1月より、詳細な行動チェック開始。同時に、ご主人・担当ケアマネとの話し合いを重ねた。
- 行動チェックに基づき、3月に常勤非常勤まじえたカンファレンスを実施。職員全体の意識変革を促す。
- 5月から「4～5時間の利用」とする。
- 6月から、「5時間利用、帰りの送迎は職員にて実施」という対応となる。

〈活動の成果と評価〉

- ご家族の協力があって、何とか困難事例を克服しつつある。当初はご主人による送迎・付添という、ほとんどご主人に頼った状態であったが、今ではご主人の介護負担軽減に寄与できている。
- ご主人いわく、「デイに行くようになって、自宅がよく眠るようになった」「茶碗を片付ける等、お手伝いの意識が出てきた」とのこと。
- K.K.さんについて取り組む過程において、認知症ケア全般の理解が深まり、職員の技量が向上した。
- 詳細な行動チェックや内部でのカンファレンスによって、K.K.さんの内的世界に近づくケアが実践できるようになった。
- 職員の中に、「困難事例を克服しつつある」という自信が芽生え、モチベーションが向上した。
- 担当ケアマネとの信頼関係が強固になった。

〈今後の課題〉

- ご主人の介護負担軽減のため、現在の取組を継続する。朝の送迎も職員でやれるようにする。利用時間を7時間程度まで延長。週3回の利用。
- デイでの蓄積をもとに、ケアマネと協力してショートステイ利用を目指す。
- K.K.さん自身がデイを楽しみながら、前向きな気持ちで生活していただけるよう、活動内容を一層工夫する。

〈参考資料など〉

- 筒井書房「バリデーション」（ナオミ・フェイル著）。